

声を出していいこう

南陽市立赤湯中学校 二年 舟山 煌斗

僕は、中学一年生だった冬、友達と三人で電車に乗って、少し遠くまで遊びに行こうとしていました。僕たちが電車に乗ったときにはまだ席が空いていたので、三人並んで座っていました。お昼に近い時間だったせいかしばらくすると車内は人でいっぱいになり、座れる席もなくなりしました。

その時、一人のおじいさんが電車に乗ってきました。しかし、座れる席がないのでずっと立っただまになっていました。僕たちは最初そのことに気づかず、座ったままずっと笑いながらおしゃべりをしていました。

しばらくして、そのおじいさんが背負っているリュックサックには、縦長の赤い四角形の中に十字とハートが白抜きされている「ヘルプマーク」がついていることに気が付きました。

僕は、中学一年生の夏、目に野球ボールが当たり眼科に行ったときに、サングラスをかけて白杖をついた人がヘルプマークを付けていたのを見たことがあったので、きっと体が不自由なのだろうと思いました。僕はすぐ席を譲ろうと思いましたが、自分から知らない人に話しかけに行くのは苦手なうえに、友達にかっつけていると思われるのが恥ずかしかったので、どうしたらいいのかわからなくなりました。しかし、席を譲らないと多点杖をついたそのおじいさんが辛いだろうと思って、隣にいた友達の肩をトントンと叩いて、「席を譲ろう」と声をかけて二人で席を立ち、おじいさんに声をかけに行きました。話しに行くのは緊張しましたが、断られるかもしれないと少し怖かったけれども、おじいさんに、

「よかったら席どうぞ。」

と言いに行きました。すると、おじいさんはとてもうれしそうな顔をして、

「いいんですか。ありがとうございます。」

と言って、席に座ってくれました。

あまりにも大きな声でお礼を言われたので電車に乗っていた人たちにジロジロ見られて恥ずかしくなりましたが、とてもうれしかったことを今でも覚えています。

ヘルプマークとは、義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または、妊娠初期の方など、外見からはわからなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるように作成したマークです。必要な人は、住んでいる市町村の窓口で「ヘルプマークが欲しい」と伝えると、無料で受け取ることができるそうです。

僕が「ヘルプマーク」についてきちんと理解したのは、今年になって足を手術するために病院に入院し、隣の患者さんが付けていたのを見た時です。看護師さんに「あれは何ですか」と聞いてみると、ヘルプマークについて説明してくださり、マークの意味を知りました。退院してから調べてみると、僕が住んでいる南陽市では、南陽市役所福祉課障がい福祉係で配布していました。係の人に電話をして聞いてみると、今年の七月には七名、八月には三名に交付したということでした。また、「ヘルプマーク」以外にも様々なマークがあることが分かりました。ぱっと見てわかるものもありますが、調べてみないとわからないものもあります。

僕はこのことから、もっと多くの人にヘルプマークのことを知ってほしいと思いました。僕がSNSを利用していても、時々ヘルプマークの紹介をしていることを見かけることがあります。が、なかには、ヘルプマークを初めて知ったなどと言う人もいます。知らなければそれぞれのマークの意味がなくなったり、障がいがある人たちが生活しづらい環境になったりしてしまうと思います。ヘルプマークなどを理解し、町で見かけたときには声をかける人が多くなっていると思います。また、僕はこれから、恥ずかしがったり怖がったりしないで、「座りませんか」「荷物持ちますか」「腕につかまりますか」などと声を出していいと思います。